

令和7年度
北辰大学 第9回学習会
☆ 事業報告 ☆

昨年度に引き続き当市市浦地区にある五月女泡遺跡についての講演が行われました。五月女泡遺跡は、縄文時代後期中葉～晚期後葉にかけて約1,000年間遺跡が継続し、大量の遺物が捨てられた「捨て場」、褐色粘土をマウンド状に盛った「土坑墓」が多数発見されていることや、日本海から季節風によって飛んでくる砂によって、縦列砂丘を形成していることを説明していただきました。また、大変興味深かったのは、捨てられたしじみの貝殻が土壤の酸性を中和したことで、捨て場の近くからきれいな形のままの人骨が発見された、ということです。

受講生の皆さんには、縄文時代の五月女苑に今とは全く違う生活の仕方をした人々の営みがあつたことに思いを馳せていました。

